

管理医師調査票

【管理医師の方がご回答ください】

都道府県		施設 電話番号	
貴施設名			
会員番号: ※封筒の宛名に記載の会員番号を転記してください			

選択式の設問は、特に指定がない場合は最も該当すると思われる番号 1 つに○を付けてください。

問 1) あなたご自身(貴施設の主たる管理医師、施設長等(以下、管理医師))についてご回答ください。

年齢	歳	老健施設 勤続年数	年	性別	1. 男性	2. 女性
専門科 (該当するもの 全てに○)	1. 内科(神経・腎臓を除く) 2. 外科(脳神経・整形・形成外科を除く) 3. 脳神経外科 4. 整形外科・形成外科 5. 産婦人科 6. 泌尿器科 7. 老年科 8. リハビリテーション科 9. 神経内科 10. 腎臓内科(人工透析) 11. 精神科 12. 眼科 13. 耳鼻咽喉科 14. 皮膚科 15. 放射線科 16. 総合診療科 17. 緩和ケア科 18. 歯科、口腔外科 19. その他(具体的に:)					
役職	1. オーナー 2. オーナーではないが経営に関与する理事等である 3. いずれでもない					
オンコール体制	1. あり 2. なし					
当直	1. あり 2. なし					
緩和医療の経験	1. 豊富にある 2. ある 3. あまりない 4. 全くない					
医療上専門医の判断を必要とする可能性がある場合について、老健の管理医師としてどのように対応すべきと考えていますか。ご自身の立場に近い選択肢を選んでください。						
				1. 当てはまる	2. やや当てはまる	3. あまり当てはまらない
①原則、全ての事例で専門病院を受診させる				1	2	3
②まずは自分の判断で治療を行い、経過を見る				1	2	3
③ご本人、ご家族等の意向を確かめ、希望に従う				1	2	3
④余命が限定的である看取り期の症例でも専門病院を受診させる				1	2	3
⑤黄疸が出現した場合は専門病院を受診させる				1	2	3
⑥貧血が出現した場合は専門病院を受診させる				1	2	3
⑦疼痛がコントロールできない場合は専門病院を受診させる				1	2	3
⑧心不全症状が増悪した場合は専門病院を受診する				1	2	3

問2) 貴施設の医療機関との連携についてご回答ください。

①	入手するようにしている医療に関わる情報について、 <u>必ず入手する項目</u> を選んでください。 (該当するもの全てに○)	1. 主病名 2. 副病名 3. 既往歴 4. 投与薬剤・投与内容 5. 薬歴(処方経緯等) 6. 認知症の有無及び程度 7. 食事内容(制限など) 8. 直近のリスクイベント(肺炎等) 9. ACP情報 10. その他(具体的に:) 11. 特になし
②	入手するようにしている医療に関わる情報について、 <u>可能な限り入手する項目</u> を選んでください。 (該当するもの全てに○)	1. 主病名 2. 副病名 3. 既往歴 4. 投与薬剤・投与内容 5. 薬歴(処方経緯等) 6. 認知症の有無及び程度 7. 食事内容(制限など) 8. 直近のリスクイベント(肺炎等) 9. ACP情報 10. その他(具体的に:) 11. 特になし
③	退所時に医療機関に提供する医療に関わる情報を選んでください。 (該当するもの全てに○)	1. 診療情報 2. 看護サマリー 3. リハビリサマリー 4. 投与薬剤・投与内容 5. 入所期間中の処方内容の変更経緯や変更後の状態 6. 入所期間中の直近のリスクイベント(肺炎等) 7. ACP情報 8. その他(具体的に:) 9. 特になし

問3) 貴施設の医師(管理医師及び補助医師)の研修参加状況についてご回答ください。

全老健等主催の研修を受講していますか。 (該当するもの全てに○)	1. 老健管理医師総合診療研修受講 2. 認知症短期集中リハビリテーション研修受講 3. 老人保健施設管理認定医(日本老年医学会) 4. ACP研修受講(外部団体主催) 5. 緩和ケア研修(外部団体主催) 6. 受講していない
-------------------------------------	--

問4) 貴施設の医療に関する説明やACPへの対応等についてご回答ください。

1)「終末期」という言葉を入所者への説明で使いますか。	1. 使用する 2. 「終末期」は使用しないが、「人生の最終段階」という言葉に置き換えて使用する 3. 「終末期」も「人生の最終段階」も使用しない
2)施設の職員と話するとき、使用頻度の高い言葉に関して選んでください。(該当するもの全てに○)	1. 「アドバンスケアプランニング」ではなく「ACP」という用語を使用 2. 「ACP」ではなく「アドバンスケアプランニング」という用語を使用 3. 「終末期」ではなく「人生の最終段階」という用語を使用 4. 「人生の最終段階」ではなく「終末期」という用語を使用 5. 「ムンテラ」という用語を使用 6. 「IC(インフォームドコンセント)」という用語を使用 7. 特に該当するものはない
3)看取り対応について、どのような方針をお持ちですか。	1. 積極的に、看取り対応をしていきたい 2. 積極的ではないが、希望があれば看取り対応をしていきたい 3. 看取り対応には、どちらかというと消極的 4. 看取り対応はしない方針である 5. 特に方針は定めていない 6. その他(具体的に:)

4) ACPの実施について、どのような考えをお持ちですか。 (該当するもの全てに○)	1. どのような入所者に対しても実施する 2. 看取りが想定される人には実施する 3. 認知症の人には実施することが難しい 4. 老人保健施設の入所者にはあまり必要ない 5. その他()
5) どのくらいの入所者のACPに、医師が関わっていますか。	1. 必ず実施している(10割) 2. ほとんどの入所者(8割以上)に実施している 3. 半分以上(5割以上)に実施している 4. 半分未満に実施している(2～4割) 5. 1割程度実施している 6. 全く実施していない(0割)
※5)で4. ～6. を選択した場合 5-1) 医師が入所者のACPに関わらない場合の理由として、当てはまる項目を選んでください。 (該当するもの全てに○)	1. 時間が確保できないため 2. 状態悪化時や看取り期など、特定の場面から関わるようにしているため 3. 意思決定支援が困難な場合など、特定のケースで関わるようにしているため 4. 医師による説明を必ずしも必要としないため 5. 医師以外の職員の方が適任であるため 6. ACPを行うノウハウが不足しているため 7. その他()
6) 医師が、ご本人、ご家族等とのACPで話し合う必要があると考えている内容について、当てはまる項目を選んでください。 (該当するもの全てに○)	1. これまでの人生でどのような生活を送ってきたか(仕事、家族背景 等) 2. 日常の中で楽しみにしていること 3. 日常の中で不安なこと、気がかりなこと 4. 施設での介護に関する希望 5. 現在の本人の疾患や症状に対する治療についての意向 6. 急変や新たな重篤な疾患や症状に対する治療についての意向 7. 人生の最終段階における医療やケアに期待すること 8. 人生の最終段階における具体的な医療措置についての意向 9. 人生の最終段階をどのように過ごしたいかに関する意向(やりたいこと、会いたい人 等) 10. 看取りの場所に関する意向 11. 医療ケアチームとしての方針について 12. ご本人の意思を推定できる人 13. 特になし
7) 慢性心不全の増悪に関してACP時の説明や治療内容に関してご自身が説明している内容に当てはまる項目を選んでください。 (該当するもの全てに○)	1. 慢性心不全に対する個別のACPは行わない 2. 慢性心不全が増悪した場合は専門医に受診するか否かを確認する 3. 現在内服している薬剤の有害事象に関して説明する 4. アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬(エンレスト)は使用しないこと 5. トルバプタン(サムスカ)は使用しないこと 6. SGLT2阻害薬は使用しないこと 7. イバブラジン(コララン)は使用しないこと 8. 酸素投与が必要となったら専門医を受診するか否かを確認する 9. 低流量酸素(鼻カニユラ)の使用までは老人保健施設で行い、それに対応できない場合は専門医を受診することを確認する 10. 施設内での利尿剤の静脈注射は行うか否かを確認する 11. 入院が必要な点滴治療(強心薬投与など)を希望するか否かを確認する 12. 特に該当するものはない

8) 貴施設入所時のACPについて、医師が医療に関わる説明を行なっている説明時間はどのくらいですか。	1. 10分未満 2. 10分以上20分未満 3. 20分以上30分未満 4. 30分以上60分未満 5. 60分以上 6. 入所時に医療に関する説明はしていない
9) 貴施設入所時のACPについて、医師が行なっている、医療に関する説明内容として、当てはまる項目を選んでください。 (該当するもの全てに○)	1. 入所者の現在罹患している主たる病名と病気の現状に関する説明 2. 入所者の現在罹患している主たる病気に関して今後起こりうる予後に関する説明 3. 入所者が内服している薬剤等、現在行なっている治療内容に関する説明 4. 入所後、施設として入所者に行なう治療内容に関する説明 5. 入所後、現在罹患している主たる病気が悪化した場合の病院への搬送に関する説明 6. 入所後、頻度が多い事故(転倒、誤嚥)の発症に関する説明 7. 入所後、頻度が多い事故(転倒、誤嚥)が発症した際に施設として行う治療方針、病院搬送方針に関する説明 8. 特になし
10) 貴施設入所時における薬物治療に関して医師ならびに施設が行なっている内容に関して、合致している項目を選んでください。 (該当するもの全てに○)	1. なるべく内服薬剤数を減らすようにする 2. 病院の退院時処方もしくは在宅で内服している薬剤を基本的にはそのまま使用する 3. 入所後、薬剤を変更した際に、本人もしくはご家族等に説明を行う 4. 入所後、薬剤を変更した際に、本人もしくはご家族等に説明を行わない 5. 入所後、薬剤を変更したい内容を本人もしくはご家族等に説明し、同意を得た上で処方内容の変更を行う
11) 今後ACPに取り組むために必要と考えることを選んでください。 (該当するもの全てに○)	1. ACPに関する自身の知識・理解 2. 施設職員のACPに関する知識・理解 3. 自身の研修受講 4. 施設職員の研修 5. 施設内でのACP取り組みの体制づくり 6. 特に該当なし

ご協力いただき、誠にありがとうございました。